

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.7

TEL:018-860-3410  
FAX:018-860-3834

## 出穂期は早まる見込み。ほ場の出穂状況を確認！

### 1 気象経過と生育状況



図 気象経過と平年値（アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用）

〈気象と生育の概況〉

7月3半旬以降、気温は高く推移しましたが、7月4～5半旬の断続的な降雨により日照時間は少なくなりました。

7月25日の定点調査結果（あきたこまち）は、草丈は86.9cm（平年比111%）と長く、茎数は488本/m<sup>2</sup>（同比108%）と多く、葉数は13.2葉（同差+0.6葉）と多く、葉色は40.9（同比107%）と濃い状況でした。

全ての調査ほ場で減数分裂期を過ぎていたことから、出穂期が早まると予想されます。

表 水稲定点調査結果（7月25日実施）

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
草丈	86.9cm	111%	103%
茎数	488本/m <sup>2</sup>	108%	106%
葉数	13.2葉	+0.6葉	+0.4葉
葉色 (SPAD)	40.9	107%	102%

※管内定点ほ場10地点の平均値（あきたこまち）

## 2 出穂期を正確に把握しましょう

本年の出穂期は平年と比べ早いと見込まれますが、移植日や生育状況によりほ場ごとに前後しますので、斑点米カメムシ類の適期防除のためにも、ほ場をよく確認して正確な出穂期（ほ場全体の40～50%が出穂した日）を把握しましょう。

## 3 今後の水管理

- 7月25日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されています。高温条件下では、白未熟粒の発生が多くなることから、次の水管理を徹底しましょう。
- 出穂の時期は水を多く必要とするため、出穂後10日間は湛水状態を保ちます。その後は間断かん水を基本としますが、気温が30℃以上になる場合は、かけ流しや水の入れ替えにより根の活力維持に努めます。
- フェーン現象等で乾燥した強い風が吹く日は湛水状態を保ち、稲体の水分消耗を軽減します。

## 4 病害虫防除対策を徹底しましょう ※( )は病害虫発生予察情報より

### ① 斑点米カメムシ類(予想発生量:多い)

- 7月17日に秋田県病害虫防除所から斑点米カメムシ類の注意報が発表されました。
- 出穂期(ほ場全体の40～50%が出穂した日)の把握に努め、出穂期10日後頃にアルバリン剤またはスタークル剤を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布します。特に、本年は出穂期が早まると予想されるため、散布時期に注意します。
- 1回目防除の散布当日から7日後までに畦畔や農道の草刈りを必ず行い、斑点米カメムシ類の増殖源となるイネ科雑草を除去します。
- 水田内に出穂したノビエやホタルイ類等が発生しているほ場、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田等に隣接しているほ場では、出穂期10日後頃の薬剤防除に加え同24日後頃にもエクシード剤またはキラップ剤を茎葉散布します。

表 斑点米カメムシ類の本田防除と草刈り時期

	6月		7月		8月			9月		
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
本田防除					1回目防除 ←→ 出穂期10日後頃		2回目防除* ←→ 出穂期24日後頃			
農道・畦畔	←→				←→ 草刈り			←→		
法面・休耕田	←→ 草刈りの徹底			←→ 草刈り禁止			←→ 草刈りの徹底			

出穂15～10日前までに数回行う。水田内のイネ科、カヤツリグサ科雑草の穂はアカスジカスミカメの発生を助長するため除草対策を徹底する。

1回目の茎葉散布剤の散布7日後までに草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努める。

稲の収穫2週間前以降から草刈りを実施する。

注)出穂したホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場やイネ科雑草が主体の牧草地・休耕田等に隣接するほ場、発生予察情報に基づき多発が予想される場合は出穂期10日後頃と同24日後頃の2回防除を必ず実施する。

※殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などと連携をとり、蜜蜂などへの危害防止に務めましょう。

※巣箱の設置場所が近接している場合は、蜜蜂が水田に飛来してくることがあるので、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯(午前8時～正午)を避け、できるだけ早朝又は夕方に農薬散布しましょう。

## ② いもち病(穂いもち)

- ・ 穂いもちが発病してからの防除では手遅れになるので、次の防除対策を適期に行います。  
葉いもちの発生が認められるほ場では、直ちにコラトップ剤(コラトップ1キロ粒剤12、コラトップ豆つぶ、コラトップ粒剤5)、ゴウケツ粒剤/サンブラス粒剤のいずれかを散布するか、出穂直前にトライフロアブルまたはビーム剤と穂揃期にトライフロアブルまたはラブサイド剤の茎葉散布を行います。
- ・ 葉いもちが多発しているほ場では、上記に加え必要に応じて傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行います。
- ・ 本年は出穂期が平年より早まるほ場が多くなると見込まれるため、防除時期を逸しないように注意します。
- ・ 本田での総使用回数は、テブフロキン剤(トライ剤)は2回以内、フサライド剤(ラブサイド剤、ブラシン剤等)は3回以内、トリシクラゾール剤(ビーム剤、ノンブラス剤等)は3回以内となっているため注意しましょう。

## ③ 紋枯病

- ・ 穂ばらみ期～出穂期の発病株率が15%を超える場合は、出穂直前～穂揃期にバシタック剤、バリダシン剤、モンカット剤、モンセレン剤のいずれかを株元に到達するように丁寧に散布します。出穂前の防除が効果的ですが、多発が予想される場合は出穂以降にも散布します。

# 5 浸水・冠水したほ場の管理

大雨により浸水・冠水したほ場では、水稻の生育に影響が出ることが懸念されるため、適切な事後対策を行ってください。

## ① 水管理について

- ・ 冠水した場合には、速やかに排水を図ります。
- ・ 浸水・冠水したほ場の稲は、水分を消耗しやすくなっています。排水後、急激に乾燥することがあるので、新しい水を入れて出穂期までは飽水状態を保つようにします。

## ② 病虫害対策

- ・ 浸水・冠水により病虫害に対する抵抗力が低下しやすいので、葉いもち等病虫害の発生状況をよく確認し、病虫害が確認されたら直ちに防除を行います。

## ③ 崩落畦畔の補修

- ・ 稲にとってはこの後も水が必要な時期が続きます。畦畔が崩れている場合は、土嚢を積むなどの応急処置により湛水状態を保てるようにします。

## ④ 作業は安全第一で

- ・ 大雨の後には、少しの降雨でも土砂災害の危険度が高まりますので、ほ場の見回り等を行う際には気象情報等に十分注意し、危険な箇所には近づかないなど、二次被害の防止を心がけましょう。

## ⑤ 刈り取りはゆっくり

- ・ ほ場内に土砂やゴミなどが流入したほ場では、すべてを除去できずほ場内に残っている場合があります。刈り取り時はコンバインの作業速度を落としたり、高刈りするなど、異物の混入対策と作業安全に配慮します。

◇次号は8月22日の予定です。